

---

U

空和アオ

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

U

### 【Nコード】

N7291M

### 【作者名】

空和アオ

### 【あらすじ】

これはあなたの話でもあるのですよ？

俺の部屋の片隅には、白い聖域と呼ばれる空間が存在する。

俺はいつもその空間に閉じ籠もり、外界での疲れを紛らわす為に精神集中の儀を執り行っている。

その儀式には幾つかの媒体が必要であり、その媒体の一つに「と呼ばれる伝説の書物が存在する。

今日はその「を使った比較的簡単な儀式を行ってみよう。

まず、様々な魔導書を置いてある本棚から「を取り出す。

この時に間違えてはいけないのが、必ず「であるという事だ。

MやCでは駄目だ。

他の人は知らないが俺の精神には「が一番しっくりくる。

そして「を手にとったら、それを持ってすぐに聖域に向かえ。

自分の心の聖域は一つしか無いはずだ。

敵に盗られる前に儀式を済ませ。

敵？ああ、気にするな。

とにかく儀式の最中は無防備だ、色々と都合の悪い事もあるだろうが、ゆっくり落ち着いて行えば君なら出来る。

さて、本題の儀式だ。

君は今白い聖域の中心、水鏡の台座に座っている。

そこで目を瞑り、心を無にするのだ。

心が無になる事により、Jの内容をより理解出来るようになるだろう。

そしてJを開くのだ。

所々魔力の所為か色の付いたページが存在するが、今回はそこまで深くJを使用するのは危険と見なして、白黒のページだけにしておく。

Jを曇り無き眼で見定めるのだ。

さて、そろそろだな。

儀式の時間だ。

慣れればそのままでも構わないが、今回はJを閉じる。

来るぞ。

ほら、段々と下腹部から下、丹田に気が集まってきている。

現代社会の日々における心の汚れを解き放つのだ。

ボットン

.....。

やればできるではないか。

ん、ちょっと待て、ちょっと長くないか？

やめろ。

やめるんだ。

お前がどれだけの闇を抱えて生きてきたのかは知らないが、それ以上出せば、台座が保たないっ！

ボットン

ふうー、何とか止まったな、しかし。

なんとゆうデカさだ。

こんなUは初めて見た。

んっ？Uか？

Uとは貴様が今出した心の闇。

本来人間ごときが抱えていてはいけないものだ。

貴様は今儀式によってUの体外具現に成功したのだよ。

しかし。

まさかここまでのUを具現化させるとは。

貴様それでも人間か？

………すまない。

それでは儀式の最後、Uの浄化を行う。

手順はこうだ。

まず水鏡の台座に映し出された心の闇であるUを、その台座に宿る聖なる力で異次元に飛ばす。

なあに、そう怯えなくても貴様の闇だ、貴様に来る。

其処にレバーが在るだろ？

そう……ちがつ、もうちょい上のやつ……そう、それ。

そうだ。

それを今から私が唱える呪文を復唱しながら捻ってみろ。

いくぞ。

エロイムエツサイム…

エロイムエツサイム…

我は求め訴えたり。

出でよ！

水の精霊ウン デイーネ！

カチッ

ジャアアアア……

ドブンッ

なにっ！？

ウン ディーネが利かないだ！？

くそっ、異次元に飛ばすどころか反発力が働いてこっちに跳んで来やがる。

仕方ない、アレを使う！

お前は退いている。

グングニルだ！

えっ？スッポン？ちげーよバカ。グングニルだっつの、………しつこいな、お前は退いておいて下さい！。

巨大な心の闇、うよ、覚悟っ！

喰らえっ、グングニルウー！！！！

ガシヨガシヨガシヨガシヨガシヨガシヨガシヨガシヨ。

今だ人間、ウン ディーネをつ！

その時人は、初めて自分の心に素直になれた気がした。

カチッ

ジャアアアア

ふう、やったな。

これで儀式は終わりだ。お疲れさんっ。

肩をポンと叩いて締めようとすると、人に手を払われた。

「お前さっきからうるさいねん！

なに人のトイレに勝手に入って来てんの？

警察呼びますよ？」

「あつ、いやっ、警察だけはちょっと……………」

「はあ？何が警察だけはだよクソジジイ。

大体アナタ誰なんですか？」

「いや…………トイレの神様で……………」

「ちょっと聞こえないんですけど？

何で声ちっちゃくなってるんすか？

この便器のシミ」

「あつ、いや、便器のシミじゃなくてトイレの神です」

「そんなこたあどうだっていいんだよ！」



「シミのオッサンがやってる事は犯罪なの、分かる？  
…… オッサン今幾ら持ってたんの」

「いや、お金は無いですよ、勘弁して下さい」

「おらっ、じゃあ跳んでみい」

「いや、だから……」

「跳べって……」

「ひいー」

「おい、そのチャリチャリしてんのなに？」

「これは、帰りの電車代です……」

「電車で来たのかよ、…… もしもしー、警察ですかー……」

こうして暇を持て余したトイレの神は警察に捕まり、人の平和は護られましたとさ。

もしもアナタの家にも便器のシミが現れた時は、警察を呼ぶか、と一緒に流してあげる事をお薦めします。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7291m/>

---

U

2010年10月15日23時55分発行